

東山手・南山手エリア

■エリアの概要

安政の開国により外国人居留地として整備された本エリアは、旧英国領事館や旧グラバー住宅、旧リンガー住宅など諸外国の領事館や住宅が軒を並べ、エキゾチックな街並みを形成してきました。今でも当時の文化遺産が数多く残り、市内有数の観光地となっています。また、大浦天主堂の一带には寺院・神社が建ち、複数の異なる宗教の建築物が近接する、長崎らしい雰囲気醸しています。

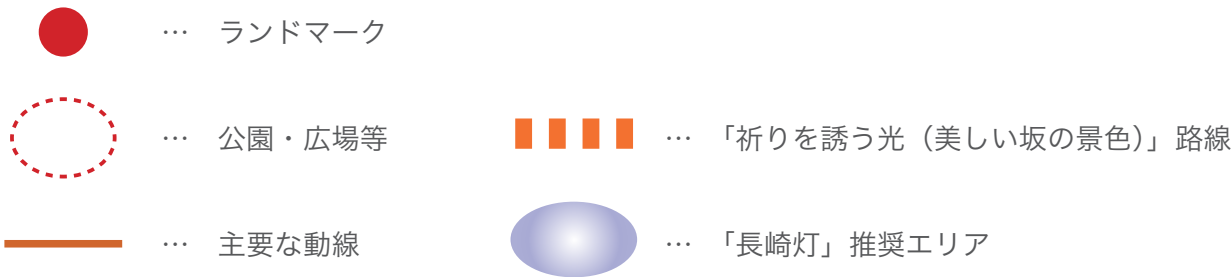


コンセプト：居留地文化を育む光

長崎における「蘭」の表情を存分に演出するとともに、観光客にとっての魅力と、そこに暮らす人にとっての快適さや誇りをともに高められるような夜間景観の形成を目指します。

■方針

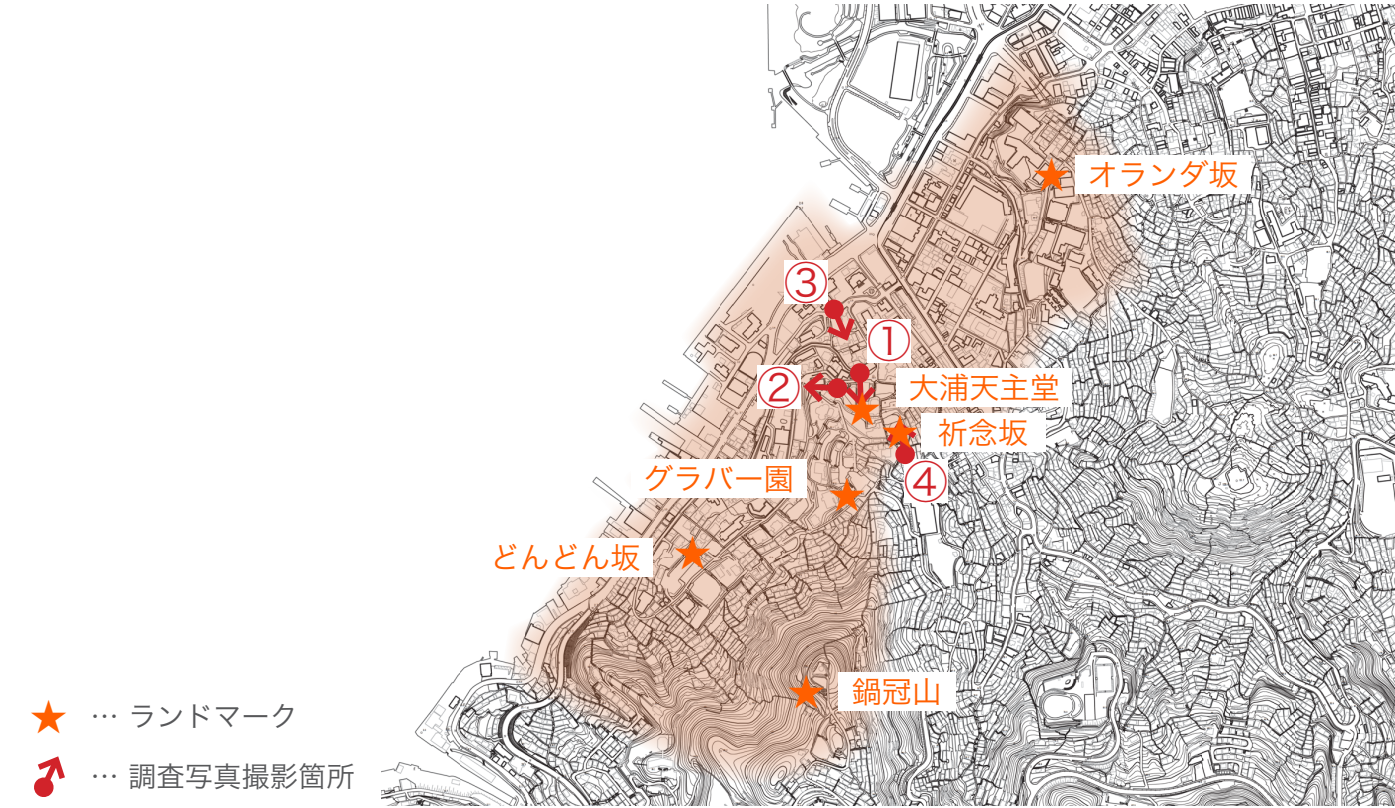
- ・洋館や教会等のランドマークは、漏れ光を主体とした繊細なライトアップを行います。
- ・特徴ある坂の街並みを美しい光で整え、港町の情緒を演出します。
- ・商店街は閉店後も動線として良好な明るさを確保します。
- ・良好な視点場である鍋冠山への安全安心な動線づくりを行います。
- ・ランドマークの背景となる住宅地では、長崎らしい防犯灯による演出を検討します。



■現状分析と課題（大浦天主堂周辺）

大浦天主堂やグラバー園内では既にライトアップが実施されており、ランドマークとしての明るさはあるものの、投光器による大味なライトアップで、穏やかな祈りの感情を想起させる景色にはなっていません。

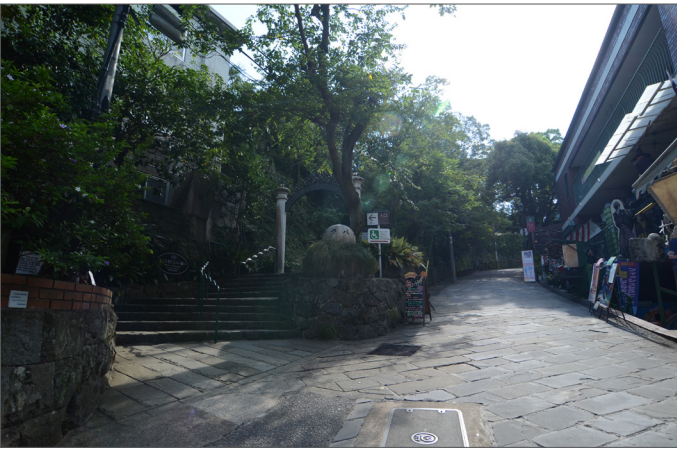
また、風情ある坂道の景観はナトリウム灯の演色性の悪い光で照らされて色彩を失い、居留地らしい瀟洒（しょうしゃ）でロマンチックな印象は感じにくくなっています。



①大浦天主堂



ナトリウム灯に照らされた街区の奥に、白い天主堂が浮かぶ。モニュメント性はあるが、やや繊細さに欠け、演色性も悪い。



②グラバー園出口



グラバー園の入口の緑は、演色性がある程度確保された光源で照らされてる。



③グラバー坂



ナトリウム灯のグレアが目立ち、色あせた空間となっている。店舗が閉まってしまうと鉛直面が暗い。



④祈念坂



ナトリウム灯のグレアと演色性の悪さにより、緑豊かな坂の先に港が見える心地よさが損なわれている。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

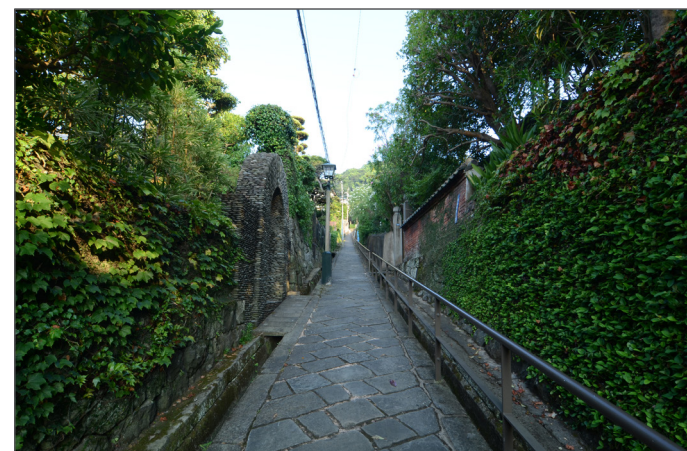
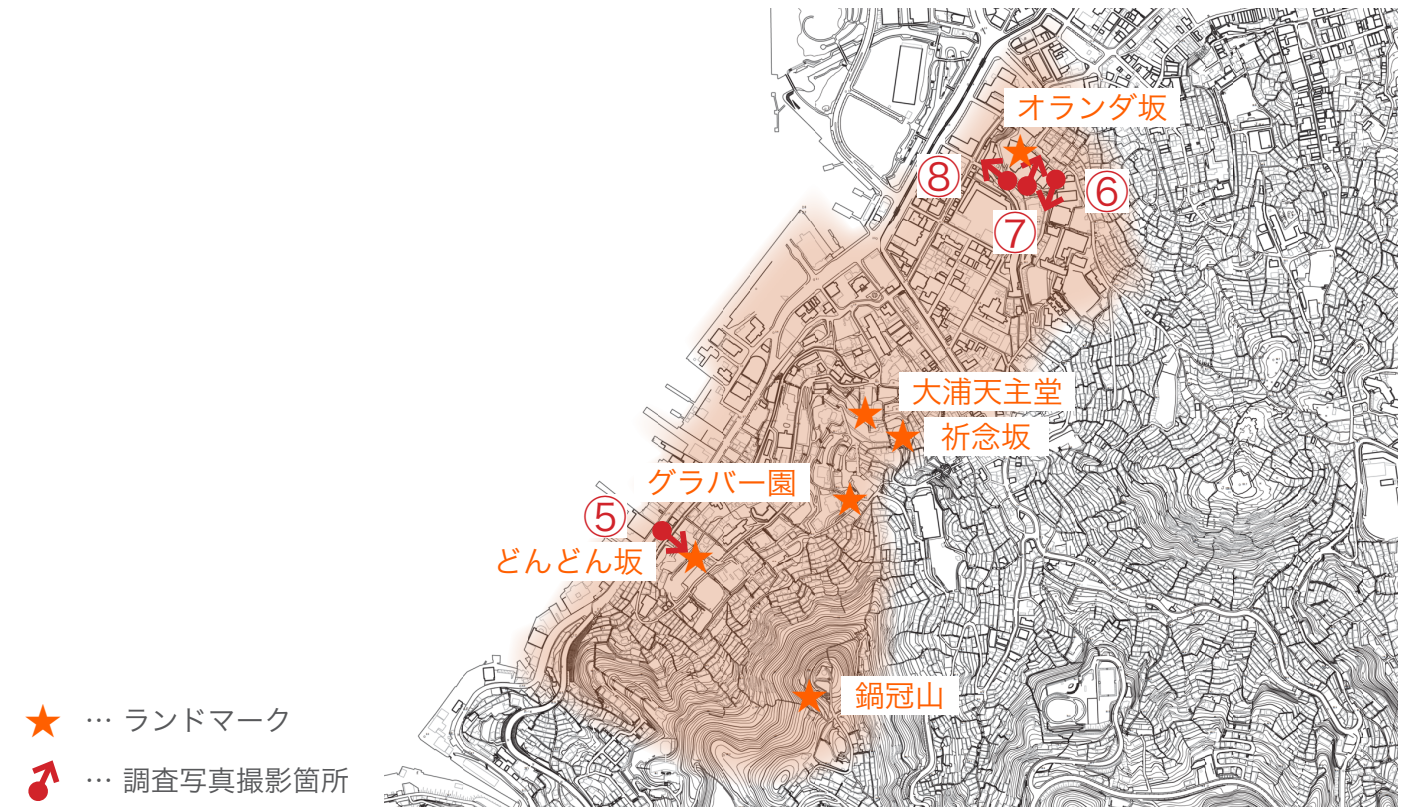
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-7. 東山手・南山手エリア

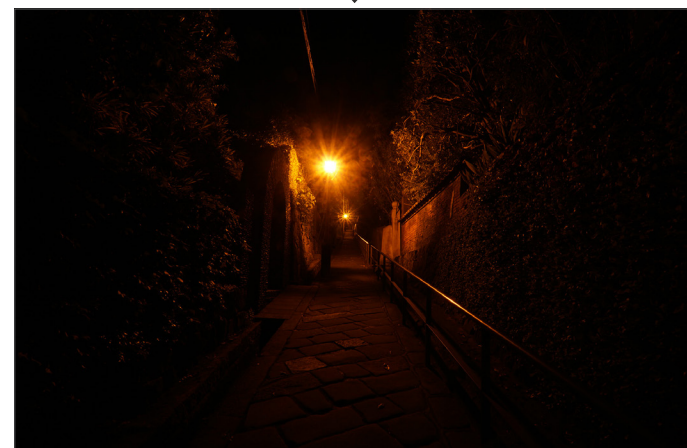
現状調査

■現状分析と課題（坂道の景観）

観光施設のライトアップが消灯される深夜には、一気に坂道が暗くなってしまいます。特に、高齢の居住者にとっては危険と思われる箇所も見受けられました。この地区では、観光客にとって魅力的な夜の光環境と、居住する人々にとって安心・快適な光環境との方向性を合致させる必要があります。



⑤どんどん坂



祈念坂と同様に、グレアばかりが目立ち、坂道を歩行するには機能的な不安を感じる。



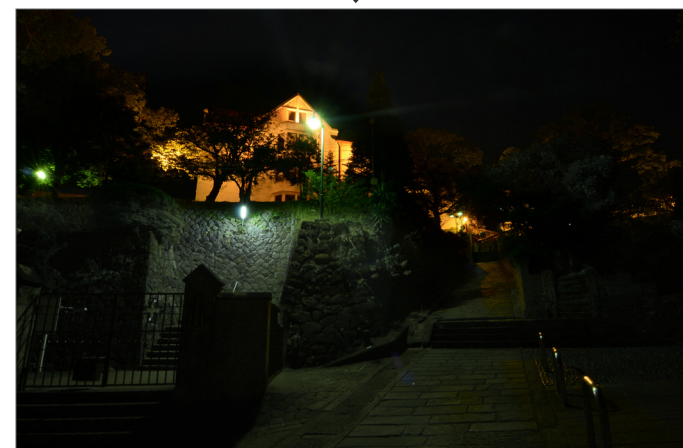
⑥オランダ坂 上



緑豊かな生垣が多くあり、雰囲気づくりに大きな役割を果たしていたが、夜にはどこも色あせている。



⑦活水女子大学



ライトアップの光源の低い色温度は、あたたかみのある雰囲気を感じさせる要素となっている。

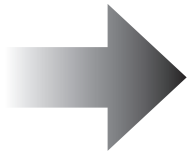


⑧オランダ坂



水銀灯と思われる街路灯が点いており、ナトリウム灯同様に演色性に課題が残る。

	現状調査から見た問題点	
陰影の考え方		・ポール灯はあるが道の先が暗く不安を感じる ・建物は暗く沈んでしまい、存在感がない
色温度		・ナトリウムランプは 2000K、 ・街路灯の一部は 5000K ・イルミネーションは白やカラフルな点滅
鉛直面輝度		・坂の両側が暗く、不安感を覚える
グレア対策		・ポール灯、防犯灯が眩しい
演色性の優先度		・ナトリウム灯や水銀灯が多く、 ・植物や建物の色味が悪い
器具		・洋風で統一され、大きな問題なし
オペレーション		・22 時以降、ライトアップが消え暗い印象



夜間景観向上のための基本原則
・路面は 1-15 Lx 程度の幅で、安心感のある陰影をつくる ・建物へのライトアップは繊細に行う
・2400 - 2700K 程度に整える
・建物のファサードや塀、緑の生垣などを意識的に照らす
・ポール灯を減らし鉛直面への照明を優先する ・防犯灯を設置する場合はグレアに配慮した器具を使用する
・人や緑をきれいに見せるため Ra90 以上を基本とする
・LED を基本とする ・引き続き、洋風の意匠で統一する
・時間によるライトダウンを検討し、 ・夕・夜・深夜それぞれの時間に住民・観光客いずれにも快適な光環境とする

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-7. 東山手・南山手エリア

祈念坂 整備イメージ



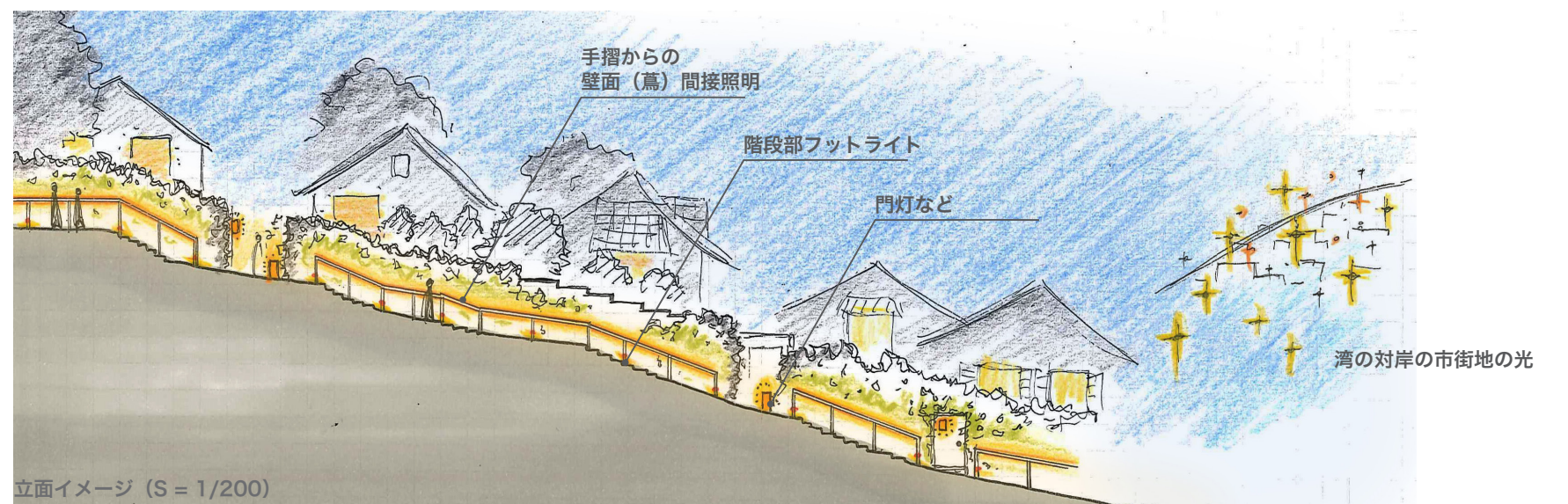
現状



整備イメージ

■整備イメージについて

グレアのあるポール灯をなくし、坂の向こうを臨む景色を邪魔しないために、低い位置の照明を主体とします。
手摺の外側にテープライト状の照明を仕込み、煉瓦やツタの風情ある壁面に光を与えることで、坂道から港へ視線を導いていくような印象的な明るさ感を演出します。
同時に、階段部には手摺の支柱を利用したフットライトを設けて機能照明とし、安全な路面の照度を確保します。
周囲の建物は、漏れ光のための照明や門灯を設けることを推奨します。



立面イメージ (S = 1/200)

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-7. 東山手・南山手エリア

オランダ坂 整備イメージ



現状

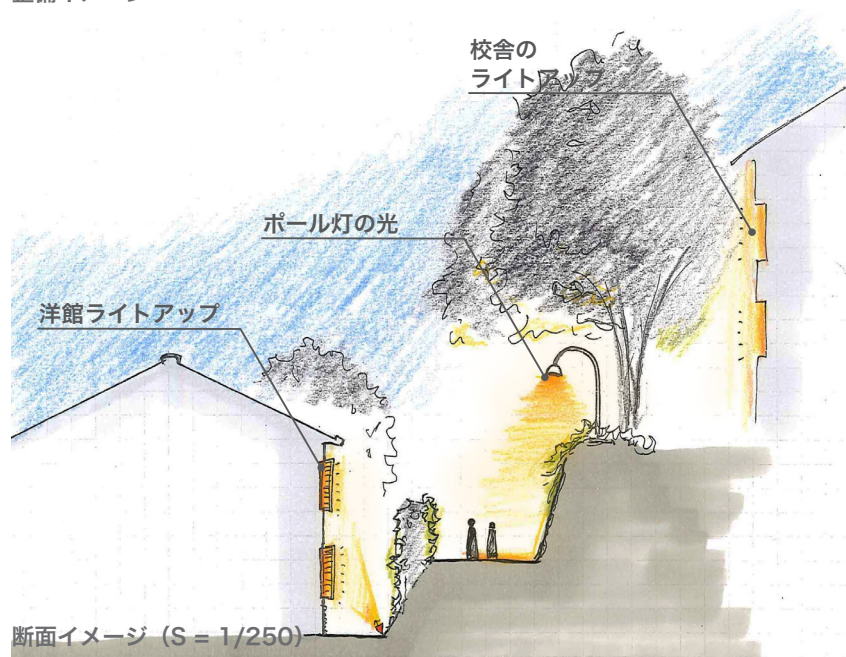


整備イメージ

■整備イメージについて

ポールの水銀灯は、グレアがなく、下方に柔らかい光を拡散させる照明器具とし、かつアーチ状に頭部を持ち出す形状とすることで、坂道を包むような石積みに光を投げかけながら、路面にリズムカルな光だまりを作ります。

洋館は、できるだけ窓戸を開けて室内からの漏れ光を主体とした演出を行い、繊細な佇まいを見せ、坂を歩く人々に期待感を抱かせます。



断面イメージ (S = 1/250)



石垣を照らしている事例（北海道）※手法は異なる

4. 夜間景観向上のためのガイドライン
4-3. 中・近景の夜間景観づくり
4-3-7. 東山手・南山手エリア
グラバー坂 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

グレアの酷いボール灯は輝度感の低いものに変更します。ただし、ガス灯風の意匠は居留地の雰囲気合っているので、今後も踏襲します。

店舗が閉まった後でも、軒先に簡易な照明を間接照明として設置することを推奨し、街並みに鉛直面の明るさを与え、大浦天主堂へ続く道として、坂道の奥行き感と安心感を感じさせるような光環境とします。



意匠照明、鉛直面の明るさがある通りの事例（東京）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-7. 東山手・南山手エリア

大浦天主堂 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

現状の投光器による白色のライトアップではなく、教会内部からの漏れ光と、ヴォールト天井になっている前室部分やマリア像を照らす光を主体とした、神聖な佇まいを感じさせるライトアップとします。光源の色温度は、2700K 程度の温かみのあるものとします。天主堂に至る階段の両脇は、参道を意識させるように手すり照明とし、敷地内の樹木は、一部を適宜ライトアップします。周囲の街路灯のナトリウム灯が演色性の悪いものであったため、色温度は 2700K 程度と低めに設定したまま、グレアのない演色性のよい街路灯を整備します。



手すり照明の事例（長崎）

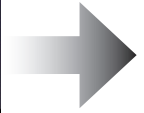


内部からのライトアップによるステンドグラス演出の事例（シャルトル）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン
4-3. 中・近景の夜間景観づくり
4-3-7. 東山手・南山手エリア
南山手レストハウス 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

建物からの温かみのある漏れ光を主体としながら、ポーチ部の壁面を窓にかからないようこまやかにアップライトしたり、石貼りの特徴的な外壁をやわらかくアップライトするなど、洋館の繊細な意匠を生かした、品のある佇まいを演出します。
外壁への照明はグレアのない器具によって行われ、光量も抑えることで、落ち着いた柔らかい雰囲気とします。



洋館の繊細なライトアップ事例（東京）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-7. 東山手・南山手エリア

東山手洋風住宅群 整備イメージ



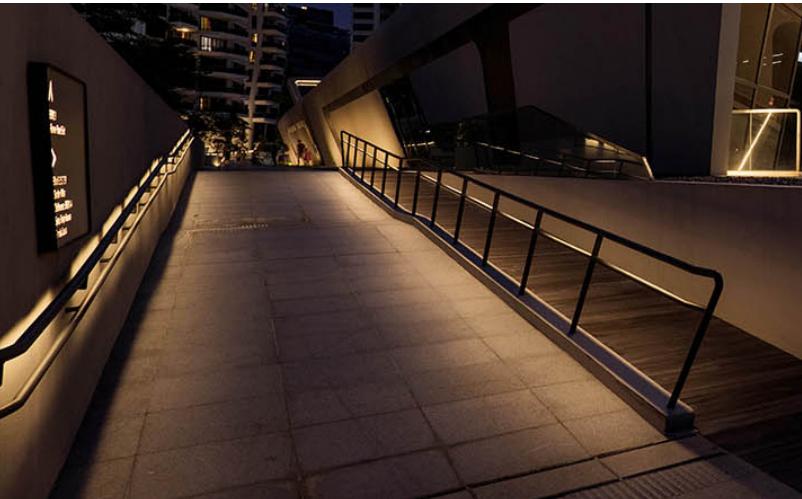
現状



整備イメージ

■整備イメージについて

現状では非常に暗い路面ですが、迷路のように期待感を抱いて歩けるよう、間接照明を塀に設置して十分な機能的照度を確保します。また、ライトアップを行っていない洋館でも、漏れ光の演出を行うことで、洋館群全体としての夜間の価値を高め、訪れたいロマンティックなエリアとします。グレアを発しているナトリウム灯は、訪れる人々の表情が綺麗に見えるよう、演色性の良い光源かつ、輝度の無い照明器具に変更します。



低い位置の歩道照明のイメージ（シンガポール）



漏れ光や意匠照明による照明の事例（東京）